

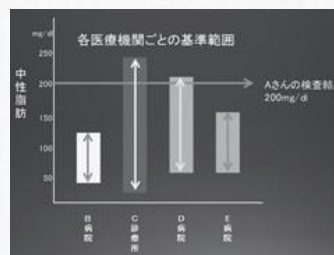
## 検査結果の基準範囲について

臨床検査は病気を客観的に判断するのに大変重要です。医療機関ごとに判断する基準が違うと大変困ります。

そこで、検査した結果を判断する基準となるものが必要になります。医療の現場では、基準範囲（※1）や臨床判断値（※2）といった指標をもちいて判断しています。

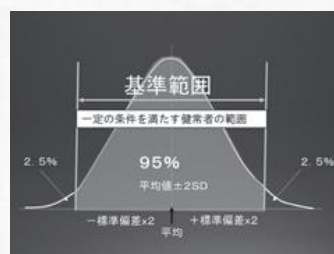
今後、医療の地域連携システムの構築や、マイナンバー制度導入にともなう国民の健康診断データ活用などで、医療機関同士の検査データの共有化が求められています。そのためには、共通した判断基準である共用の基準範囲が必要とされています。そこで、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）は、日本国内の施設間の差を無くし、全国どこに行っても受けた検査でも、同じ結果の解釈を聞くことができる、共用基準範囲を採用するように働きかけています。すでに日本医師会をはじめ、主なJCCLSの会員である団体の同意、賛同を得ています。当院でも、この4月からJCCLSが提唱している共用基準範囲を採用しました。診察の際、医師はその基準範囲や臨床判断値をもとに、病気の可能性、病気の程度、治療効果などを判断しています。なお、検査結果に関しては、測定方法自体が変わりませんので、今まで検査結果を記録し、比較している人にとっては、何も変わることはありません。また、その測定方法についても、品質が保たれていなければ意味がありません。当院の検査室は、（一社）日本臨床衛生検査技師会認定の精度保証施設認証を取得し、常に質の高い検査結果を提供しているため、安心して検査を受けることができます。

（※1）**基準範囲**とは、大勢の健康な人から求めた結果をまとめて、その95%が入る範囲を定めています。病院を受診した場合や、健康診断などで病気の可能性がないかを検査の結果から判断する際に使われます。これで病気が診断できるわけではありません。

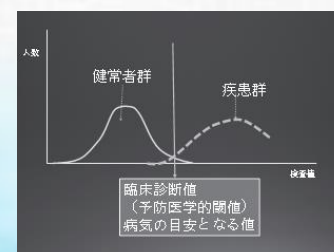


基準範囲のずれ

（※2）**臨床判断値**とは、ある特定の病気が疑われる場合（診断閾値）や、将来の病気が発症するかもしれない予防学的見地から判断される基準値のことで、病気の診断や治療、予防のための判断基準としてもちいられます。日本糖尿病学会や日本動脈硬化学会など専門学会がガイドラインとして表しています。



基準範囲



臨床診断値

〔医療技術部長 西岡正彦〕